

1 あなたの学校や家での学習のことにについて教えてください。

■分析と今後の指導上の工夫

・「勉強が好きですか」「学校の授業がどの程度分かりますか」「各教科の学習は好きですか」の設問に対して、本校の肯定割合は、市の肯定割合と比較して少し高い状況であった。各教科の学習について教科によっては、肯定的な回答をしている児童がいる。すべての児童が、勉強は楽しくよく分かると思えるように、分かりやすい指導を心掛けていく。

・「1日の学習時間」に対する項目では、平日は30分～1時間程度学習に取り組む児童が多い一方、土日は平日に比べ学習時間が短くなっている。高学年に向け、適切な時間家庭学習ができるよう声を掛けていく。

・「学習に対する気持ちや態度」についての項目では、すべての設問で市の肯定割合を上回っている。。学習がおもしろいという気持ちや学んだことを実生活と関連付けてみる態度など、学ぶ意欲をこれからももち続けられるよう、今後も授業の内容や指導の仕方を工夫していく。

・「学習の仕方」についての設問では、ほとんどの項目で市の肯定割合を上回っている。

・「家庭での学習」についての項目では、ほとんどの設問で市の肯定割合を上回っている。しかし、「前の日のうちに、次の日の学校の用意をしている」は、76.9%で、市の肯定割合より8ポイント下回っている。このことについては、今後児童の学習状況に応じて個別に声を掛けたり、保護者の方に協力いただいたりして習慣化できるようにしていく。

・「世の中のことへの興味・関心」についての項目では、昨年に比べて肯定割合が高くなった。定期的に図書室を利用し、様々なジャンルの本にふれる機会を設けたことで、いろいろな種類の本を手取るようになった。これからも様々なジャンルの本に幅広く親しめるよう、学校図書館司書と連携しながら、児童の読書意欲を喚起する本を適宜紹介していく。

2 あなたの毎日の生活について

■分析と今後の指導上の工夫

・「あいさつ」についての設問では、すべての設問で肯定割合が100%であった。学校、家庭、地域のいずれの場所においても意識してあいさつをしている児童が多いことがうかがえる。今後も、自分から進んであいさつができるように指導していく。

・「学校生活に満足していますか」の設問では、肯定割合が100%であった。互いのよさを認め合う人間関係を基盤とした温かいクラスの雰囲気形成され、居がいのある学級経営に努めてきたことが反映されている。

・「読書の時間」についての設問では個人差がある。本校で取り組んでいる「水曜日の家庭学習は読書をする事」を通して、読書習慣が定着していくよう、学校図書館司書と連携しながら、今後も組織的、計画的に読書指導に努める。

・「動画視聴やゲームの時間」についての設問では、休日になると動画視聴の時間やゲームをする時間が長くなる傾向にある。家庭でのルールを守ってメディアやゲームと付き合いけるよう学校においても指導していく。

・「あなた自身のこと」「友達のこと」「家の人や先生のこと」についての設問では、市の肯定割合を上回っており、ほとんどの項目で100%であった。互いのよさを認め合う人間関係を基盤とした温かいクラスの雰囲気形成され、居がいのある学級経営に努めてきたことにより、自己肯定感も高く、友達と仲よく楽しく、助け合いながら学校生活を送っていることにつながったと考える。これからも児童一人一人が安心して生活できるように支援していく。

・「家での過ごし方」についての設問では、「家の手伝いをしている」「朝、自分で起きることができる」の肯定割合が市の肯定割合と比較して下回っている。高学年に向け、自分で起きられるようにすることや、睡眠の大切さなどを家庭と連携しながら学校でも指導していく。

3 スマートフォンやけいたい電話について

■分析と今後の指導上の工夫

・「携帯電話やスマートフォン」についての設問では、スマートフォンやキッズ携帯を持っている児童は0人だった。今後に向けて「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」の家庭への周知徹底に努め、児童にもこの共同宣言を意識させながら、情報モラルについて指導していく。

4 あなたの体力やけんこう、食事、安全について

■分析と今後の指導上の工夫

・体力についてはすべての設問で、市の肯定割合を上回っており、児童は運動の大切さを理解していると考えられる。今後も体育的行事とも関連を図って運動する機会を設けたり、「がんばりカード」や検定表を活用したりと、積極的に運動できるよう支援していく。また、健康や体力に自信をもち、休み時間や放課後、休日などに進んで運動する児童が増えるように声を掛けていく。

・食事に関する設問では、肯定割合が高い。食事のマナーや栄養のバランスなど、児童は食事や健康に対する関心が高いことが分かる。日々の給食指導を基盤に、校内給食週間での意識付けなどの食育指導の積み重ねによるものと考えられる。

・「好き嫌いをしないで食べていますか」の設問では市の肯定割合とほぼ同等であり、苦手なものでも食べようとしている児童の頑張りが反映されている。今後も食事マナーについては、適宜声を掛けながら指導していく。

・「安全」についての設問では、肯定割合がすべて100%である。今後も、状況に応じて自分の身の安全を守るために、危険予測に基づいて避難行動をとったり、目的意識を明確にして避難訓練に参加したりするように指導し、普段の安全指導も徹底していく。